

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：12606

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K12998

研究課題名(和文)高村家資料の調査研究 光雲・光太郎・豊周の作品制作

研究課題名(英文) Research and study of Takamura family materials-Production of works by Koun, Kotaro, Toyochika

研究代表者

藤曲 隆哉 (FUJIMAGARI, Takaya)

東京藝術大学・大学院美術研究科・研究員

研究者番号：20466999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は高村光雲〔彫刻家〕(1852～1934年)、光太郎〔彫刻家/詩人〕(1883～1956年)・豊周〔鍍金家〕(1890～1972年)の制作に関する遺品を調査し、3作家の制作方法に関して研究をするものである。遺族宅に遺された資料の写真撮影および調査の遂行を行った。また、本研究の成果報告を兼ねた展覧会『高村光雲・光太郎・豊周の制作資料展』を東京藝術大学大学美術館・正木記念館にて令和3年12月10日～19日の期間に行い、展覧会会期中12月11日にはシンポジウムを開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果から明治年末以降の高村光雲の制作方法を明らかにし、光雲が江戸の仏師屋的な制作方法から星取り法を用いた近代的な制作方法を取り入れていく過程を検証した。また、高村光太郎の木彫制作道具を調べることで光雲との共通性と相違に言及し、高村豊周の制作方法の痕跡を調べることで、光太郎作品の鑄造者としての高度な技術力を再確認した。また、それら資料を展示公開することで実際に鑑賞し議論する機会を設けた。

研究成果の概要(英文)：This study investigates the relics of the productions of Koun Takamura [Sculptor] (1852-1934), Kotaro [Sculptor / Poet] (1883-1956), Toyochika Takamura [Metal casting Artist] (1890-1972). This is a study on the production method of the sculptor. Photographs of the materials left in the bereaved family's house and the investigation were carried out. In addition, the exhibition "Mitsuun Takamura, Kotaro, Toyochika's Production Materials Exhibition", which also serves as a report on the results of this research, will be held at the University Art Museum, Tokyo University of the Arts, Masaki Memorial Hall from December 10 to 19, 3rd year of Reiwa. The symposium was held on December 11th during the exhibition period.

研究分野：彫刻史

キーワード：彫刻史 近代美術 木彫 制作技法 高村光雲 高村光太郎 高村豊周 星取り法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

1. 研究開始当初の背景

これまで高村光雲・高村光太郎・高村豊周（以下3名の苗字は省略する）に関する研究は古くは光雲自身の談話をもとに執筆された『光雲懐古談』（萬里閣書房、1929年）があり、近年では展覧会『高村光雲とその時代展』（三重県立美術館、2002年）、『誕生130年高村光太郎展』（千葉市美術館、2013年）などによってその業績が明らかにされてきた。しかしながら、いまだ一般に認識されていない資料が高村家の倉庫内に保管されていることは研究者の間でもあまり知られていない。その資料群の中には、光雲が木彫制作に使用した星取り用の石膏原型や肖像彫刻を制作する際の写真資料、大正時代から昭和10年前後の作品制作のための出納帳、光雲・光太郎・豊周が制作に使用した道具類や蔵書が残されている。これらの資料を整理・調査研究することで、光雲・光太郎・豊周の制作の方法やプロセスをより具体的に明らかにすることができるだろう。

2. 研究の目的

本研究の目的は高村家に残る制作時の資料を整理し、それらの使用用途や年代を明らかにすることで、今後資料の適切な保管を検討し、光雲・光太郎・豊周の研究に活用する手始めとすることである。また、その資料の調査結果から各作家がどの様に制作を行っていたのかを明らかにすることで、制作技法の詳細に迫るものである。

3. 研究の方法

本研究では高村家資料の整理とその美術史的な位置づけを行うための調査に重点を置く。資料は①木彫・石膏・鑄造作品などを含む彫刻資料、②作品制作時に使用された出納帳類の紙資料、光雲、豊周を中心とした写真や手紙類の紙資料、光雲、光太郎、豊周の道具資料、その他それぞれの制作に使用された石膏見本などの立体資料、⑥豊周の蔵書に大きく分けられる。これらを分類ごとに資料番号を付し資料名を付けて、可能な限り年代を特定するなどの整理をし、対応する資料図版をつくることで今後の研究の基礎資料とすることを試みる。

4. 研究成果

資料の写真撮影および調査を行った。資料は調査を進める過程で、光雲の物、光太郎の物、豊周の物が混在し道具箱、段ボール、引き出しに収められていることが分かった。この理由には光雲の物を光太郎、豊周が引継ぎ使用していることによる。そこで各資料は調査時点で収納されていたボックスごとに付番をつけ分類調査を行った。そのボックスごとの分類は可能な限りその作家が使用したものなのか検証し、分類を行った。また、高村光雲の星取り用石膏原型は約10点を確認し、主要作品「秋の鹿 雌雄」「春の鶏 雌雄」は線撮影を行った。

本研究の成果報告を兼ねた展覧会『高村光雲・光太郎・豊周の制作資料展』を東京藝術大学大学

美術館・正木記念館にて令和3年12月10日～19日の期間に行った。

展覧会会期中12月11日にはシンポジウムを開催し、藤曲隆哉（研究代表者）、高村達氏（写真家）、田中修二氏（大分大学）、藤井明氏（小平市平櫛田中彫刻美術館）による講演会及び同4名と毛利伊知郎氏（前三重県立美術館館長）による座談会形式の鼎談を行った。

研究の最終年度には研究報告書「高村家資料の調査研究 - 光雲・光太郎・豊周の作品制作」を発行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学保存修復彫刻研究室	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学保存修復彫刻研究室	5. 総ページ数 192
3. 書名 年報2019-2020	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------